

遊んで学ぼう外来種

兵庫県立御影高校 総合人文コース グローバルスタディ 地域探究プロジェクト2班
岩井涼 永藤小珀 谷侑樹 森亮羽 森わかば

1. 動機

近年、外来種問題を耳にする機会が増えたが、有名な外来種に危害を加えられたり、外来種により環境が大きく変化していると感じている班員はいなかったため、外来種は人間に悪影響を及ぼすのかを疑問に思った。

2. 目的

小学生の子どもたちに外来種の知識をつけてもらう

3. 事前調査

①定義

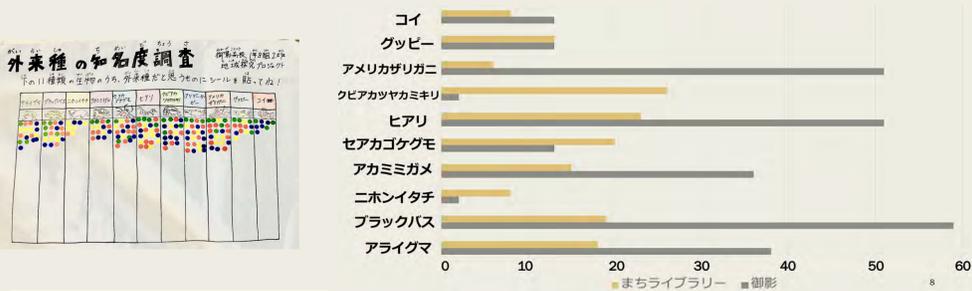
- ・外来種とは、**人為の影響によって**本来の生息地域から、元々は生息していなかった地域に入り込んだ生物のこと。
- ・元々その地域に自然分布していた生物は**在来種**(在来生物)と呼ばれる。
- ・外来生物法において「外来生物」とは国外由来の外来種のみを指す。
「**外来種**」とは **由来の国内・国外を問わず、本来の生息地域とは違う地域に生息している生物**を指す。(農林水産省HPより)

②環境局、展示センターにおけるインタビュー

	アライグマ	アカミミガメ	ヒアリ	ツヤハダゴマダラカミキリ	クビアカツヤカミキリ	計
人間や人間の暮らしへの害	・住居に侵入 ・人へのかみ傷、ひっかき傷、人にかかる感染症(狂犬病等)を持つ		・人への刺傷、アナフィラキシーショック			3
環境や在来種への害	・農作物の食害 ・イシガメ等在来種の食害 ・タヌキとの競合	・水辺の農作物(レンコン等)の食害 ・在来種イシガメとの競合 ・水草、魚等の食害	・電気設備等の損傷 ・在来のアリとの競合	・公園の樹木や街路樹(アケビ)を食害し、枯死	・サクラ、ウメ、モモなどのバラ科樹木を食害し、枯死 ・ウメ、モモ等の果樹の農業被害	11

③認知度調査

外来種について知らなかったのは我々だけなのか、他の高校生も外来種のことを知らないのか、そもそもみんなはどのくらい外来種について知っているのだろうか、などさまざまな疑問点が浮かんだので、認知度調査を実施した。
調査対象：御影高校生・先生、小学生の子どもたち



4. 調査結果

調査を振り返ると、回答するときの会話や回答の理由が御影高校生・先生と小学生の間で違いがあることに気づいた。
高校生・大人：ニュースで観た、学校の授業で習った→**自信**
子どもたち：生物自体を知らない、見た目が怖い、名前が外種っぽい→**この子たちに知ってもらいたい!**

リサーチクエスション

小学生の子どもたちに外来種についてもっと楽しく学んでもらうためにできる高校生なりの工夫はなんだろうか？

→**ワークショップ**を開催

楽しく学んでもらうためにはカルタが有効。
WWFの「ピンチくん」を参考に、もっと簡単に身近な神戸の外来種でオリジナルカルタを製作した。

5. ワークショップ概要

開催場所：まちライブラリー (2~5名)
浜御影児童館 (約60名)

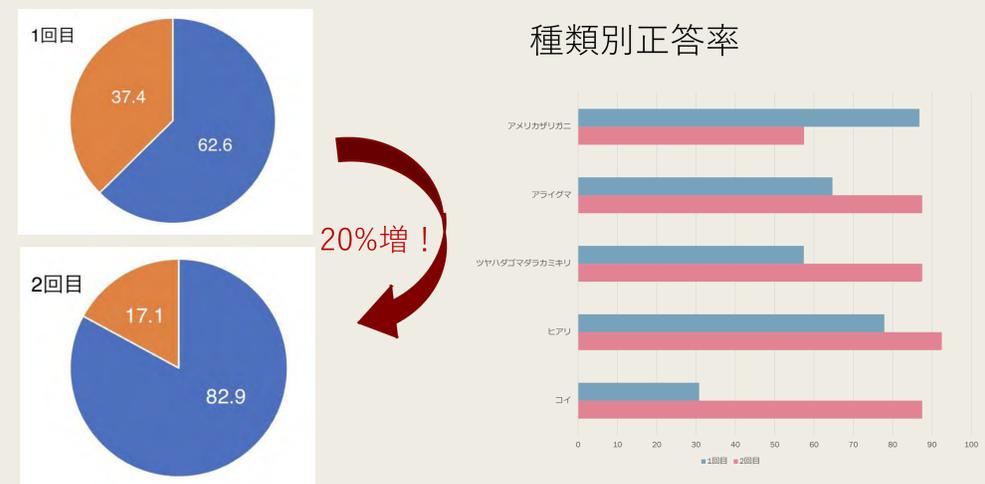
所要時間：30~35分

プログラム：クイズ⇒ガイダンス⇒カルタ⇒クイズ
※クイズは○×形式

クイズの目的はワークショップの前後で知識量に変化が出るかどうかを調べる



6. クイズ正答率の変化



7. 結論

クイズの**正答率上昇**がみられた
→小学生の子どもたちに外来種のことを知ってもらえることができた
楽しみながら学んでもらう
→**カルタは有効**

8. 今後行う検証

今回のワークショップに加えて、以下の方法を取り入れると、より外来種について詳しく理解できるのか検討する。

- ①ぬりえ…外来種の**外見や色の特徴**を伝える
- ②絵本…外来種になった**背景**を伝える

協力してくださった皆様

御影高校生徒、職員の皆様
ポートアイランドまちライブラリーの皆様
神戸市環境局自然環境課の皆様
外来生物展示センターの皆様
浜御影児童館の皆様

参考文献

環境局HP 特定外来生物「アライグマ」
神戸市アライグマ防除実施計画
Wikipedia「アメリカザリガニ」
環境局HP 日本外来種対策「アメリカザリガニ」
環境省YouTubeチャンネルより『入れない! 捨てない! 拡げない! STOP! アメリカザリガニ』
神奈川県HP「アメリカザリガニ」
国立環境研究所 侵入生物データベース「ニホンイタチ」
くらしのマーケットマガジン イタチ駆除『自分でイタチを退治する方法と寄せ付けたい予防策』
環境省「クビアカツヤカミキリ」
農林水産省HP